

未来につながる「最後の社会貢献」

貴方の「思い」を のこす遺贈へ

日本財団遺贈寄付サポートセンター

活動報告書・2019



日本
財団
遺贈寄付
サポートセンター

THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER

遺贈寄付サポートセンターからのご挨拶

初夏を過ぎていよいよ蒸し暑い夏にさしかかる頃となりました。この度の新型コロナウイルス感染拡大につきまして皆様のご心労はいかばかりかとお察し申し上げます。

このような状況の中で、日本財団遺贈寄付サポートセンターは、2016年4月の開設以降、皆様の「人生最後の社会貢献」のためにご相談を受けて参りましたが、これまでに約6000名の方からお問い合わせをいただき、111件の遺言書を作成いただきました。今年も引き続き多数の方々から遺言書作成のためのご相談を受けており、この数年の間に皆様方の遺贈寄付への関心が高まってきていることを実感しております。

日本に遺贈寄付文化を根付かせることを目的に、私共が実施いたしました昨年度の活動をまとめましたので、ご覧頂きたく存じます。

遺贈は、あなたの「思い」を未来につなぐこと、そしてあなたの生きた証を未来に遺すことです。私たちはそのことを大切なミッションとして、これからもご相談にいらっしゃる方の声を聞きお気持ちに寄り添いながら、遺贈寄付が明るい未来を作る社会の実現を目指して活動して参ります。

新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのか、不安な毎日ではございますが、人生の締めくりに社会貢献をお考えでいらっしゃいましたら、どうぞご遠慮なくお問い合わせくださいませ。スタッフ一同誠心誠意務めさせていただきますことをお約束申し上げます。

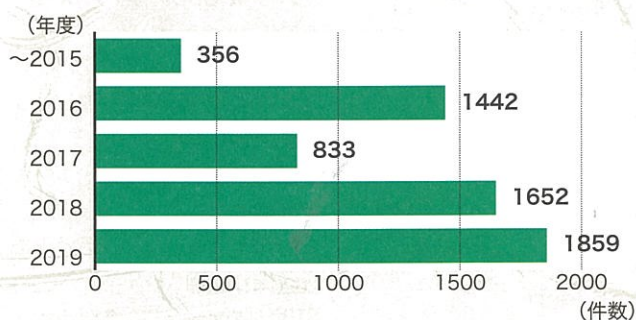
遺贈寄付サポートチーム
チームリーダー

木下園子

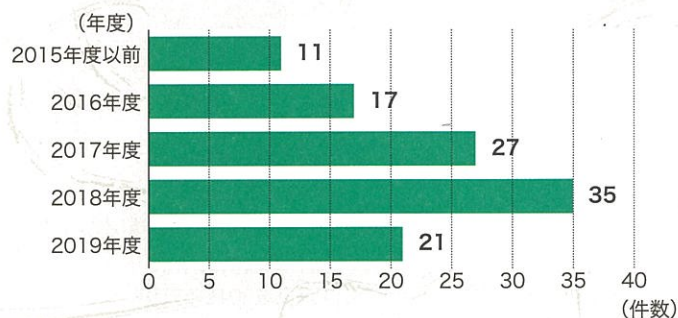


皆様の思いがかたちに これまでの寄付受入実績

問合せ件数推移



遺言書受領数



遺贈寄付受入実績

2015年度まで	遺贈寄付 3件	247,029,582円	相続寄付 1件	30,000,000円
2016年度	遺贈寄付 2件	44,576,287円	相続寄付 2件	1,500,000円
2017年度	遺贈寄付 4件	214,604,497円	相続寄付 7件	28,000,000円
2018年度	遺贈寄付 4件	95,722,105円	相続寄付 4件	12,000,000円
2019年度	遺贈寄付 5件	429,138,080円	相続寄付 4件	27,800,000円

遺贈寄付を活用した事業実績

6つの事業の実施に活用されました。



第三の居場所

遺贈寄付…1件 89,910,000円
相続財産からの寄付…3件 9,000,000円
支援先:特定非営利活動法人トイボックス

生活困窮世帯の子どもたちへの支援として「第三の居場所」全国100拠点の設置を目指して2016年から「子どもの貧困対策プロジェクト」を推進しています。2020年4月に大阪府に開設する建物に、遺贈寄付と相続寄付を合わせ、98,910,000円が活用されました。

コウキくん(仮名・小1)は両親のいざこざで、虐待を受けて育ちました。自分を守るために自己表現をしなくなり、学校生活でも嘘を繰り返す日々が続いていました。心配した先生が昨年11月、「第三の居場所」へと繋ぎました。この拠点に来たころは声を出して喋ることはおろか、大人と目を合わすこともありませんでした。そんな彼もこの2、3カ月でめざましく変わってきています。

「喋るようになったし、自己決定もできるようになってきた。今は、こんなにイヤって主張できるようになったんやあ、っていうくらいワガママ爆発、自己解放中で

す」と、拠点のマネージャーは話します。

彼は、通常2歳から4歳で通過する第一次反抗期を、7歳の今、駆け足で迎えています。一度は傷つき失いかけた成長の道筋を、子どもらしい力で取り戻そうとしているのです。早ければ2週間くらいで拠点に慣れ、子どもは変化の兆しを見せていきます。それは「大人との距離が変わることで子どもも変わっていくという証です」と拠点マネージャーは言います。

「大人との距離がこんなに近くなるのが、まずないと思うんですね。自分のそばにいてくれて自分の話を聞いてくれて。何食べる?とか、宿題する?とか問いか

けてくれる経験があんまりない子たちなので。何より自分の存在が確認できて、嬉しいんだと思います。」

未来のある子どもたちの命の育みのために、ありがたいご寄付を活用させていただきました。



第三の居場所で自分らしさを取り戻していく

夢の奨学金

遺贈寄付…4件 35,922,560円
相続財産からの寄付…1件 1,000,000円
日本財団自主事業

2016年4月、「日本財団夢の奨学金」という給付型奨学金制度をスタートさせました。支援の対象は、社会的養護(※)のもとで暮らした若者たちです。入学金および授業料と、生活費等の補助、すべての奨学生にソーシャルワーカーが寄り添うことでサポートし、自立を支援します。

2019年、第5期生の選考が行われ応募総数221名の中から審査のうえ13名が選定されました。そして4件の遺贈寄付と1件の相続財産からの寄付金を、第2期生から5期生までの勉学の意欲に燃える若者たちの夢の実現に役立てることとなりました。

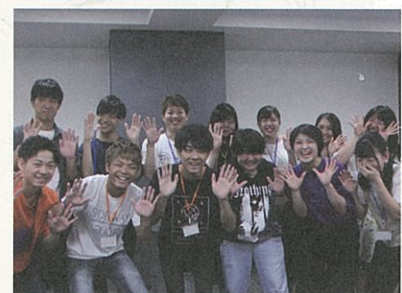
これまでに夢の奨学金を受けた第1期生の長谷川俊介君(遺贈寄付サポートセンター第一回の活動報告書でも紹介しました)は、この春念願かなって教員採用となりましたことも、うれしいニュースとしてお伝えいたします。

ある奨学生からのメッセージ

この奨学生は、先日学校を優秀賞で卒業し看護師国家試験にも合格しました

この奨学金をいただくまでは、いつ死んでもおかしくないような生活でした。でも、この奨学金があったから私は生き直すことができ、前を向いて歩いて、自分の人生をいま生きることができています。初めての経験ができて、初めて幸せを感じて、生きてよかったって心から思います。見ず知らずの人が私たちのために、大切なお金を寄付してくださっている、ということにどれだけ勇気をいただいて、それが頑張る励みになったことか、人の温かさをこんなにも感じることができるなんて思っていませんでした。

本当に感謝しかありません。いろんなことがあったけれど、夢を叶えるサポートをしてくださったことから感謝しています。本当にありがとうございました。



奨学生たちの交流会

※「社会的養護」とは：日本には、何らかの事情で産みの親の家庭で育つことのできない子どもたちが約4万5000人います(2019年3月現在)。事情は、親の死亡や病気、経済的な理由などによる育児困難、育児放棄、虐待などさまざまです。こうした子どもたちを公的責任において養育し、保護することを「社会的養護」と呼びます。

難病の子どもと家族の支援：難病の子どもと家族のファミリーレスパイト事業

遺贈寄付…1件の一部 50,000円
相続財産からの寄付…1件 10,000,000円
支援先：(公益社団法人)難病の子どもとその家族へ夢を

国内に20万人以上いるといわれている難病の子ども。そんな家族の社会的孤立を防ぎ、ゆったりと過ごせる環境を提供して社会的健康を促進する「難病の子どもと家族を支えるプログラム」に、相続財産からのご寄付と遺贈寄付の一部を支援させていただきました。

一人ひとりが“社会との繋がり”を実感し、「夢」をもつことができる社会の実現に取り組んでいくことを目指し、その活動の支援に活用させていただきました。

行き先のひとつは、今年度開所した沖縄県恩納村のレスパイト拠点、Hope&Wishバケーションハウスです。ここは難病を患う子とその家族、近隣の人々や支援者など、社会の誰もが交流できるコミュニティの場としての役目を担っています。沖縄の素晴らしい“自然”と“社会”、大きな空、流れる雲、まぶしい太陽、輝く星、碧い海、寄せる波、見たこともない野菜や果物、植物、そして出会う人々との

「挨拶」や「立ち話」に触れながら、そこで過ごす子どもたちや家族は、“非日常”を経験するとともに、日々向き合う”日常“の尊さに改めて気づくそうです。

また、もう一つのプログラム、身体的ケアや金銭的な面も含めた支援を得て旅行を楽しむ「ウィッシュ・バケーション」では、東京ディズニーランドや大阪市のユニバーサル・スタジオ・ジャパン、新潟県の舞子スノーリゾート等への家族全員旅行を実現しました。それぞれの場所で、家族は”非日常”に触れた子どもたちの笑顔を中心に刻み、笑顔の中に活力を見出して”日常”へと帰っていきました。

遺贈寄付の大きな力に支えられ、難病の子どもとその家族は「大丈夫、独りじゃない」と実感し、更に家族の絆を強くして将来への希望と活力を見出しています。



イルカと一緒に遊ぶ子どもたち

難病の子どもと家族の支援：訪問型ミュージカルプログラムの実施にかかる機器の整備

相続財産からの寄付…1件 5,000,000円
支援先：特定非営利活動法人心魂プロジェクト

国内に20万人以上いるといわれている難病の子ども。そんな家族の社会的孤立を防ぎ、家族皆がゆったりと過ごせる環境を提供して社会的健康を促進する「難病の子どもと家族を支えるプログラム」に、相続財産からのご寄付と遺贈寄付の一部を支援させていただきました。

「相続財産の一部を子どもの支援に使って欲しい」と故1様の相続人12人からのご希望を反映し、難病の子どもたちとご家族の元にプロのアーティストが出向いて「オリジナルミュージカル」「ソング・ダンス」「ワークショップ」などを開催する「デリバリー・パフォーマンス」のプログラムのための機器の整備(楽器や投影機材、衣装)に活用させていただきました。

病気などで外出できずプロの舞台に触れられない子どもたちにこそアーティストの生のパフォーマンスとパワーを直接届けたいと願う活動で、アーティストたちは劇団四季や宝塚歌劇団出身のプロの

俳優達です。「劇場に来られないなら、舞台と客席が遠いなら、私たちが近づけばいい!」と、劇場どころか病棟ホールへも行く事ができない子ども達の元へ、病棟廊下や病室ベッドの枕元などどこへでも出かけていき、生のパフォーマンスで魅了します。繊細な感覚を持つゆえその場の転換にゆっくり対応したい子ども達のために、音や照明に少しずつ馴染んでもらう細やかな工夫をしながら、音響、照明を含む全ての機材をその場に持ち込み、本場さながらの感動を届けようという心遣いが生かされています。

上演後のアーティストの元には「劇場

に行くことが難しくなった息子の楽しんでいる姿を見て嬉しくなった」「元気をもらった」などの声が届けられました。これからも、難病の子どもたちと家族に本音の感動を伝える活動は続くことでしょう。



子どもたちを魅了するパフォーマンス

ミャンマーにおける遊具寄贈事業

遺贈寄付…1件 15,823,109円
(支援額:126,585米ドル)
支援先:Saetanar

ミャンマー東部のシャン州とカヤー州は、都市部に比べて社会インフラや生活基盤整備が遅れています。学校の不足や老朽化で、識字率が低く、学校への出席率も低いといった課題があるこの地域に「発展途上国の教育支援」として遺贈寄付の一部を支援させていただきました。

2016年2月、末期がんを宣告されたT様は遺言書を書くことを決意し、体力を消耗される中、公証役場で3月1日に遺言書を作成されました。遺言書の付言事項には、アジアや中東、アフリカなどの発展途上国の子供の教育支援に活用してほしい、という希望が記されていました。当時ヨガの教室を経営しインストラクターとしても活躍され、その研鑽のため発展途上国にも何度か訪問されていたので、そこで目にされた状況からのご希望だったのでしょう。同年3月28日にご逝去され、ご親族からの遺留分侵害の請求を経て、寄付金額が確定しました。

この遺贈寄付の活用を検討していたところ、日本財団国際協力事業部が手を挙げました。ミャンマー東部シャン州とカヤー州の子どもたちの教育支援事業です。この地域には、多くの少数民族が居住していますが、中央政府と内戦状態にあった少数民族武装組織の勢力下にあったところでもあり、社会インフラや生活基盤整備が都市部に比べて遅れています。学校の不足や老朽化で、識字率が低く、学校への出席率も低いといった課題があることから、日本財団ではかねてから国際事業部のミャンマー支援事業において400校以上の学校を建設して

きました。そして、このたびのT様の遺贈寄付で、70校にスポーツ遊具(すべり台1台、シーソー3台、ブランコ2台、うんてい1台、ロープ登り1台、登り台1台)を寄贈することができたのです。子どもたちの元気な笑い声は、天国のT様にも聞こえているかも知れません。



遊具のお披露目に喜ぶ子どもたち

カンボジアにおける簡易体育館(屋根付運動施設)建設事業

遺贈寄付…1件 11,031,020円
(支援額:101,500米ドル)
支援先:一般社団法人教育支援センターキズナ

カンボジアの小中高校は、運動場や校庭などの設備が十分ではありません。また雨季の影響で子どもが運動できる環境は著しく限られています。そこで、教育支援センターキズナに対し「発展途上国の教育支援」として遺贈寄付の一部を支援させていただきました。

カンボジアでは、保健体育やスポーツへの保護者の理解の程度が低く、小中高校には子どもたちの身体の健全な発達を促すための体育館、運動場、校庭などの設備が十分にありません。また家畜が学校敷地内に入りし、一年間のうち約半年を占める雨季の影響で土地は平らでないため、子どもが運動できる環境は著しく限られているというのが実情でした。そこで、日本財団と教育支援センターキズナは、カンボジア西部のコクコン州において日本財団夢の奨学金事業の元奨学生が校長として勤務する学校から2校を選定し、雨や強い日光にもさ

らされずに運動のできる簡易体育館を建設するプロジェクトを立ち上げました。現地では、この体育館を切望し補強工事に必要な資金を募金するなど建設のために意欲的に動いています。これからの子どもたちの健全な環境での成長が楽しみです。

活用させていただいた遺贈寄付は、「日本よりも厳しい状況にある海外の方々の役に立ててもらいたい。日本財団でその時に一番大切なことに使ってほしい」と遺言書に書かれた故Y様からのものでした。遺言執行時、ご遺族から「日本財団で使ってくれるなら安心だ」とい

うありがたいお言葉もいただきました。そのお気持ちを受けて、完成した体育館にはSupported by Ms. Yamadaとお名前を記すことにいたしました。故Y様の思いは、カンボジアの子どもたちに長く語り継がれることでしょう。



建設の進む体育館

周知・メディア掲載実績

新聞広告

2019年9月2日
全国紙5紙(読売、朝日、毎日、日経、産経 各新聞)

2019年11月13日
河北新報

2019年11月26日
北海道新聞

2019年12月16日
中日新聞

2020年1月6日～7日
全国紙5紙(読売、朝日、毎日、日経、産経 各新聞)

2020年1月6日
山陽新聞

2020年1月7日
静岡新聞

2020年1月8日
新潟日報

2020年1月20日
長崎新聞、佐賀新聞

2020年1月21日
熊本日日新聞

2020年1月23日
神戸新聞

2020年1月30日
京都新聞

2020年2月13日
西日本新聞

2020年2月19日
東奥日報

雑誌広告(ゆいごん川柳)

2019年12月9日
公募ガイド2020年1月号

新聞広告(セミナー告知)

2019年11月12日
河北新報

2019年11月28日、12月2日
北海道新聞

2019年12月21日、
2020年1月4日・11日 中日新聞

2020年1月14日・24日
山陽新聞

2020年1月14日・18日
新潟日報

2020年1月17日・18日・22日
佐賀新聞

2020年1月19日・21日
静岡新聞

2020年1月21日・23日
長崎新聞

2020年1月23日、2月1日
熊本日日新聞

2020年1月30日、2月4日
神戸新聞

2020年2月3日・5日・6日・13日
京都新聞

2020年2月16日・19日
西日本新聞

2020年2月24日・26日
東奥日報

雑誌タイアップ記事(企画広告)

2019年9月号、2019年11月号
文藝春秋

2019年9月27日号、
2019年12月20日号 週刊朝日

2019年10月31日号、
2019年12月12日号 週刊文春

メディア掲載(新聞・雑誌・web)

2019年4月9日
公募ガイド2019年5月号
(ゆいごん川柳)

2019年4月11日
@DIME

2019年4月26日
週刊朝日

2019年4月27日
読売新聞online

2019年5月30日
2019年6月号 月刊金融ジャーナル

2019年6月1日
家庭画報2019年7月号

2019年6月24日
AERA 2019年7月1日号

2019年6月25日、
2019年7月7日号 サンデー毎日

2019年6月26日
AERAdot

2019年9月17日
都政新報

2019年9月24日
朝日新聞online「相続会議」

2019年10月3日
産経新聞(正論)

2019年11月24日
読売新聞

2019年12月11日
河北新報

2019年12月11日
時事ドットコム(ゆいごん川柳)

2019年12月12日
室蘭民報

2019年12月13日
北海道新聞

2019年12月20日
愛媛新聞(ゆいごん川柳)

2019年12月25日
北海道新聞

2020年1月5日
tenki.jp

2020年1月5日
ガジェット通信

2020年1月15日
ソナエ 2020年新春号

2020年1月16日
中日新聞

2020年1月16日
中部経済新聞

2020年1月25日
新潟日報

2020年1月27日
朝日新聞online「相続会議」

2020年1月28日
山陽新聞

2020年1月30日
静岡新聞

2020年2月4日
佐賀新聞

2020年2月4日
NHK長崎(web記事)

2020年2月5日
長崎新聞

2020年2月6日
テレビ長崎(web記事)

2020年2月6日
熊本日日新聞(2記事掲載)

2020年2月11日
佐賀新聞

2020年2月18日
京都新聞

2020年2月19日
神戸新聞

2020年2月20日
週刊文春

2020年2月20日
神戸新聞

2020年2月28日
日刊ゲンダイ

2020年3月1日
ボートレース選手新聞

2020年3月3日
リベラルタイム 2020年4月号

2020年3月3日
朝日新聞online「相続会議」

2020年3月4日
西日本新聞

2020年3月6日
京都新聞

2020年3月10日
東奥日報

2020年3月18日
岩手日日(ゆいごん川柳)

2020年3月31日
毎日が発見ネット

ラジオ

2020年1月4日
ラジオ大阪「終活ラジオ ソナエ」
(遺言の日について)

2020年1月5日
ラジオ大阪 時報告知
(日本財団遺贈寄付サポートセンター)

2020年1月10日
SBSラジオ「PPO」(セミナー告知)

2020年1月11日・18日・25日・2月1日
ラジオ大阪「終活ラジオ ソナエ」
(遺贈について)

2020年1月15日
ラジオ大阪「OBCグッドアフタヌーン
#ラジオうら」

2020年1月16日
東海ラジオ「タクマ・神野のど〜ゆ〜ふ〜」

2020年1月23日
KBCラジオ「PAO〜N」

2020年1月27日
文化放送「大竹まことのゴールデンラジオ」

2020年1月29日
STBラジオ「まるごと!エンタメ〜ション」

テレビ

2019年9月4日
TBSテレビ「ひるおび」

2020年2月4日
NHK長崎

2020年2月5日
テレビ熊本 ニュース

2020年2月5日
テレビ長崎 ニュース



日本財団ひなげしの会 イベントご招待

- ① 2019年5月15日～26日
日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018
@ Bunkamura Gallery/Wall Gallery
- ② 2019年5月29日～6月4日
日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018
@ 障害者 スポーツ文化センター 横浜ラポール
- ③ 2019年6月4日
スカンジナビア・ニッポンササカワ財団交流会
@ 日本財団ビル
- ④ 2019年8月29日
第4回大学太鼓フェスティバル @ 文京シビックホール
- ⑤ 2019年9月29日
第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
@ とりぎん文化会館梨花ホール
- ⑥ 2019年10月6日
第21回日本太鼓全国障害者大会 @ 倉敷市玉島文化センター
- ⑦ 2019年10月13日
第34回国民文化祭・にいがた2019
第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会「太鼓の祭典」
@ 上越文化会館
- ⑧ 2019年10月29日
ストラディバリウス コンサート 2019 @ 福岡シンフォニーホール
- ⑨ 2019年10月30日
ストラディバリウス コンサート 2019 @ 大阪いづみホール
- ⑩ 2019年10月31日
ストラディバリウス コンサート 2019 @ 東京サントリーホール
- ⑪ 2019年11月3日
第3回浅草太鼓祭 @ 隅田公園山谷堀広場
- ⑫ 2019年11月17日
第16回日本太鼓シニアコンクール @ 輪島市文化会館
- ⑬ 2019年11月29日～12月1日
日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム2019 @ 東京国際フォーラム
- ⑭ 2020年1月17日～18日
第475回定期演奏会
＜畢生の傑作／日本音楽財団ストラディヴァリウス・シリーズ7＞
@ 愛知県芸術劇場コンサートホール
- ⑮ 2020年2月1日
豊田市コンサートホール・シリーズVol. 8
＜名曲／日本音楽財団ストラディヴァリウス・シリーズ8＞
@ 豊田市コンサートホール
- ⑯ 2020年3月4日 ※新型コロナウイルス感染対策のため中止
平日午後のオーケストラVol.5 @ 愛知県芸術劇場コンサートホール
- ⑰ 2020年3月21日 ※新型コロナウイルス感染対策のため中止
にっぽん文楽 ～義経千本桜 道行～ @ 万博記念公園 太陽の塔前
- ⑱ 2020年3月22日 ※新型コロナウイルス感染対策のため中止
第22回日本太鼓ジュニアコンクール @ 名古屋国際会議場
- ⑲ 2020年3月25日 ※新型コロナウイルス感染対策のため中止
日本財団夢の奨学金 2019年度活動報告会 @ 日本財団ビル2階
- ⑳ 2020年3月27日 ※新型コロナウイルス感染対策のため中止
2025年における社会的見守りを考えるシンポジウム
～これからの住まいとケアを語る～ @ 日本財団ビル2階

遺言セミナー・個別相談会の実施

日本財団遺贈寄付サポートセンターでは、お問合せの多い遺言書の考え方、書き方、遺贈寄付に関する情報発信を全国各地で行うため、2019年11月より2020年3月まで地方都市13か所(仙台、札幌、名古屋、新潟、岡山、静岡、佐賀、長崎、熊本、京都、神戸、福岡、青森)で、相続専門行政書士佐山和弘氏による遺言セミナー「日本一楽しい!遺言書教室」とセンター相談員による遺贈相談会を実施いたしました。

お申し込みいただいた方の70%以上となる、合計383名の方がご参加されるといふ高いご関心をいただき、皆様方の遺言書を書きたい、遺贈について前向きにと

らえたいというお志の高さを感じました。

また、それに先立って2019年9月には東京で終活・遺言セミナー(講師は同じく佐山氏。参加者75名)を、2019年9月から11月にかけて首都圏1都3県で個別相談会を実施いたしました。各会場とも参加者からは「遺言書の書き方がよく分かった」「遺した財産に想いを託すことができそうです」といった声が聞かれ、ありがたいお言葉を頂戴しました。

2020年度の遺言セミナー開催については、詳細が決まり次第ご案内いたします。



ゆいごん川柳入選作品一覧

1月5日「遺言の日」に合わせて、2019年12月2日(月)から2020年1月6日(月)にゆいごん川柳を公募しました。11,768作品の応募の中から選ばれた栄えある大賞1作品、入賞3作品、佳作6作品です。

大賞 かあさんを頼むと父の強い文字 (もみじさん 58歳/主婦)

【講評】夫婦でもいづれはどちらかが先に逝きます。父さんが遺言に「くれぐれも母さんを頼む」と家族に念を押して頼んでいます。下五の「強い文字」という表現は愛していた妻への思いを如実に表しています。

入賞 遺言で結び直した赤い糸 (富クルーズさん 61歳/主婦)

【講評】この赤い糸を絶対に切ってはならぬとの切なる思いが伝わってきます。家族はバラバラになってはいけない。フンチームで仲良くしてほしい、家族のつながりを大事にしてほしい、そんな気持ちを遺言に託しています。

入賞 相続で困る田舎の古い家 (紫苑さん 74歳/無職)

【講評】古里の古民家、今では過疎化して誰も継ぐ人がいません。この家の相続で財産や孫たちにどう遺言したらよいかかわからず、継ぐ人のいない実家の遺言は少子化時代の大きな問題となっています。

入賞 今日を書く 明日は書こうと 遺言書 (ツトムさん 73歳/無職)

【講評】遺言書をきちんと書こうと思ってもなかなか書けないのが世の常です。気分的に自分がいなくなるという思いに寂しさもあり、まだまだ書くのは早い、引き伸ばしたい、という思いも浮かんでくるとなかなか書けません。正月の三が日に遺言をしたためるなど、書くきっかけや習慣を身に付けるのも良いかもしれません。

佳作 寄付されてくやしいエライ 父らしい (いなさくさん 69歳/無職)

佳作 たかが紙 されど争い なくす紙 (蒼介さん 43歳/会社員)

佳作 グーグルも知らない父の 生きた地図 (光虫さん 31歳)

佳作 書き終えて 妻に赤ペン 入れられる (ささじょうさん 37歳/公務員)

佳作 負債額 つぶやくだけで 皆離れ (いぶしぎんさん 67歳/無職)

佳作 あれこれと 書いたがつまり ありがとう (やまともさん 35歳/その他)

大賞・入賞に選ばれた4作品は首都圏、愛知、大阪、兵庫の三省堂書店、紀伊國屋書店、リプロ、あゆみブックス、文禄堂、オリオン書房、PAPER WALL 各店舗にて、書店しおりとして配布されました。

今回の「ゆいごん川柳」は、全日本川柳協会のほか、成年後見落語もされる落語家の桂ひな太郎さんのご協力を得て、大賞、入賞、佳作の計10作品を選考いたしました。応募作品は、令和、A.I.、ラグビーW杯等世相を反映した作品も多く寄せられましたが、家族や親子間の思いが感じられる作品や“負”動産や負債といった話題を川柳ならではのユーモアで表現しニヤリとさせられる作品など、遺言書や相続の話題が少しずつ世間に浸透してきたのではないかと感じさせる作品が増えてきたように思います。次回もどうぞお楽しみに。

ホームページリニューアルのお知らせ

遺贈や遺言、終活に関する情報を充実させ、今まで以上にわかりやすい情報発信を行うため、2019年12月にホームページをリニューアルいたしました。

ページ内では、日本経済新聞編集委員や法律専門家によるコラムも定期的に更新し、不安になりがちな終活や老後の備えに耳寄りな情報も記されています。



組織・体制

担当役員

専務理事 前田 晃

事務局

チームリーダー 木下 園子

(准認定ファンドレイザー、ファイナンシャル・プランニング技能士)

相談員

青木 伸夫

佐藤 恵子(終活カウンセラー、ファイナンシャル・プランニング技能士)

中野 美奏(2級ファイナンシャル・プランニング技能士)



木下 園子



青木 伸夫



佐藤 恵子



中野 美奏

顧問

弁護士 鈴木 大輔氏(東京リベルテ法律事務所所属)

お問い合わせ先

0120-331-531

9:00~17:00 (月~金/土日祝日を除く)

日本財団
遺贈寄付
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER

日本財団 遺贈寄付サポートセンター
107-8404 東京都港区赤坂1-2-2